

2010年度 第3回執行理事会議事録

期 日：2010年9月4日(土)13:00～18:30

場 所：地質学会事務局

出席者：宮下会長，渡部副会長

藤本常務理事 斎藤副常務理事 井

龍 石渡 坂口 高木 内藤 西

向山各理事，(事務局) 橋辺

欠席者 (委任状提出あり)：久田副会長，小

嶋 中井 平田 藤林 星 山口

各理事

*定足数 (12, 委任状含む) に対し，出席者
11名，委任状 7名，合計18名の出席で執
行理事会の開催は成立。

*前回議事録を承認した。

I 審議事項 (報告事項と関連するものは合
わせて説明)

1. 支部長連絡会議審議事項：9/18富山に
て開催 (渡部副会長)

時間の関係で昼，第1部と夕方，第2部
(特別講演と同時進行) の2回に分けて行う。
話題となるもののうち，以下を執行理事会で
再確認した。

・今後の年会行事については，あらかじめ
星行事委員長が直接関係支部とコンタク
トを取る。

・会計的なこととして，支部の予算等につ
いては，会計担当から別途連絡する。

・今後支部としての受託事業等があった場
合については，学会本部に相談するよう
伝える。

2. 学会標準策定活動について (渡部副会長)
想定される活動としては，1) 標準層序・
年代，2) 地質関連JIS，3) 構造調査標準
手法とする。

現地層名委員会，地質標準委員会とは，別
途調整を図る。

3. 各委員会規則改正案の修正版 (前回提出
分) の確認および改正案

1) 執行理事会→事業部会→業務委員会→作

業委員会 (WG)

理事会→(管轄の)委員会(規則で定める委員会と提案型の研究委員会がある)→作業委員会(WG)のヒエラルキーで規則案条文を整理・修正する。

2) 改正規則案および新規提出:

地学オリンピック支援委員会規則案・地質災害委員会規則案:不備があるので、理事会までに再度検討する

企画出版委員会規則案, 南極地質研究委員会趣意書・規則案, 地質学史アーカイブス委員会趣意書・規則案, 総務委員会規則案:了承, 要整理

3) 修正版:

地質学雑誌編集委員会規則案:2条は「企画・編集・出版を行う」, 3条は「執行理事事に報告する」とする微修正。

広報委員会規則案:広報メディア編集規則案については再検討を要するので17日の理事会への提案はしない。

行事委員会規則案・ジオパーク支援委員会規則案・地質環境の長期安定性委員会規則案:了承, 要整理

4) 技術者継続教育委員会の新委員長候補者を検討する。

4. 学会における受託事業について

法人として事業を受託する方向性を承認し, そのために必要な各種手続き等の準備を, 12月理事会に向けて進める。

5. 友の会について

幅広く地質に興味のある人を対象にする。研究, 技術, 教育の地質学会本体の主要業務でカバーされていない分野について, 自律的に活動できる組織を作る。

地質学会本体と友の会との関係が有料サービスの提供と享受だけでは運営負担が大きい, コストと合わせてサービスを考える必要がある, などの意見がでたが, さらに理事会で意見を聞くこととした。

6. 年会のプレスリリースについて

今後, 年会講演だけでなく, 会員が地質学雑誌, アイランドアーク等の学会の成果公表の手段で発表するものについてのプレス発表は, 解禁日を設定する方向でルール作りをする。理事会には方針を報告する。

7. 学生の野外研究活動, 野外実習等の教育活動を行う際の安全確保, 対策についての「ヒヤリ・ハット」運動の推進:学会として事例の集約を行い各大学等に配信することの検討(伊藤理事提案)

提案を会員に紹介することにする。

8. 理事会の議題および資料確認:

法務局提出書類に関連して総会の運営などについて

執行理事の職務分担については, 既に前回の理事会で紹介しているので, 報告とする。

9. その他

1) 理事会規則の追加修正(向山理事)

・第13条1項1号の運営財政部会の業務委員会から会計委員会を削除する

2) 地質学会広報メディアとしての「地質

ニュース」誌の利用の可能性の検討慎重に検討する。

II 報告事項

(1) 運営財政部会:総務委員会

<外部の賞の募集>

1. 平成23年度 笹川科学研究助成の募集, 学術研究と実践研究の2部門, 学術研究の申請2区分:一般科学研究(院生・非常勤, 任期付き研究者35歳以下)・海洋船舶科学(院生または研究者常・非問わず35歳以下), 平成23年4月-24年2月10日の単年度に達成, 成果がまとめられるもの, 募集期間10/1-10/15→HP, News誌に掲載

2. 山田科学振興財団(ロート製薬)より2011年度研究援助候補推薦依頼, 地質学会の推薦件数3件, 援助対象期間2011/9~2013/3の研究, 募集開始10/1~3/31→HP, News誌に掲載

学会への募集締め切りは1月末。100-500万/1件, 総額3000万円。

3. テクノオーション・ネットワークより「海の前線」を拓く岡村健二賞創設及び候補者公募のお知らせ(推薦依頼)海洋工学関係の論文, 募集期限9/21→HP, News誌に掲載

<共催・後援その他依頼・要請等>

1. 計測自動制御学会主催の「第36回リモートセンシングシンポジウム」(11/4-5, 防衛大学校)の協賛依頼について例年のとおり承諾した。

2. 21世紀の地学教育を考えるフォーラム実行委員会より「第11回子供のためのジオ・カーニバル」同 企画委員会主催(11/6-7, 大阪市立科学館)の後援義使用依頼にたいし, 例年のとおり承諾した。

<その他>

1. 8/18法務局への変更届け提出, 役員の変更登録は完了した。

2. 日本学術振興会学術システム研究センターから科学研究費補助金「系・分野・分化・細目表」に関する意見募集に対し, 学会としても意見を提出した

3. 文部科学省より, 「一家に1枚」ポスターの企についての企画募集があり, 現在企画出版委員会に上がっている地質年代表のアイデアをもとに簡易版にして応募予定のことを, 坂口理事が提案し了承した。

<会員の動静その他>

1. 今月の入会者(9名)

正〔院割〕会員(7名)吉本 紋, 清水 聡, 平井 彰, 加藤睦実, 仲小路理史, 手打 晋二郎, 柳澤達彦

正〔学部割〕会員(2名)木本健太, 青山えりか

2. 今月の退会者 なし

3. 逝去者(正1) 津田貞太郎(8月1日 逝去)

4. 8月末日会員数 賛28 名誉75 正会員4119(内訳:正 3913, 院割 187, 学部割 19) 合計4222(昨年比-

135)

(2) 運営財政部会:会計委員会

1. 英文添削料単価が来年度から約15%のアップとなる。

(3) 広報部会:広報委員会

1. 8/31広報委員会を開き, 行事委員会とともに年会のプレスリリースについて検討した。

(4) 学術研究部会:行事委員会

1. 見学旅行のうち, 立山(7/18), 焼岳(4/13)の2コース(いずれも1泊2日)については定員が大幅に割れ, 実行の有無について再検討が必要となっている。4日の締め切りを待って早急に結論を出す予定。

2. 2012年以降の年会開催地については近畿・四国・東北・北海道の各支部に依頼, 折衝中

(5) 学術研究部会:国際交流委員会(石渡)

1. INHIGEO(国際地質学史委員会)日本大会(豊橋)の共催の許諾に関連して, 猪俣会員より現況の報告があった。

これを受けて, IUGS直属の委員会であることや運営内容を確認し, 学会としては共催および資金援助(金額未定)を承諾することとした。今後は地質学会が日本大会の共催団体であることを明示し, サーキュラーおよび同委員会の活動報告等を随時ニュース誌に掲載し, 会員に周知してもらうことを要望することとした。

2. 韓日地質学会室戸合同大会は, 韓国29名(うち学生25名), 日本43名(うち学生19名), 合計72名の参加者があり, 無事終了した。また, 今後も何らかの支援が得られれば, 基本的には2年に1度のペースで交代に開催する方向性が確認された。学会記事はNewsに掲載される。

(6) 編集出版部会:地質学雑誌編集委員会(小嶋編集委員長)

1. 編集状況報告(9月3日現在)。

2010年度投稿論文 総数50編〔総説18(和文18), 論説19(和文17・英文2), 報告4(和文4), 短報7(和文7)ノート2(和文1・英文1)〕口絵9(和文4 英文5)

査読中 43編 受理済み 31編(うち通常号12 特集号19)

2. 116巻9月号掲載分より図表説明の英文校閲外注を開始

3. 特集号「陥没カルデラ(II):噴火プロセス・テクトニクスと長期予測」(世話人三浦大助

ほか)116巻9月号掲載。現在校正中。(59頁+口絵)

4. 特集号「第四紀の新定義と日本列島の第四系」(世話人 斎藤靖二・佐藤時幸・井龍康文)の各原稿の投稿が開始された。

(7) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（井龍編集委員長）

1. 編集状況報告

（担

当：山口，藤林）

1. 城が島リーフレット（蟹江会員）は校正中，刊行間近.
2. 超歴史年表リーフレット（清川会員）は，ポスター様式のリーフレットとして編集を要請済み．著者修正中.
3. 監修本「地形の大研究」が刊行された．献本10部.

(9) 社会貢献部会（藤林）

1. 地学教育委員会（中井）

- ・富山大会で夜間小集会を開き，高校のカリキュラム改訂の状況について情報収集，討議する予定.
- ・8月22日第四紀学会ポスターサロン「自然史の教育と研究をすすめるために —さまざまな分野からの取り組み」にて，広報委員会と協力して地質学会の取り組み内容を紹介（ポスター3枚）．発表総数147件.
- ・6月19日の第四紀学会シンポジウム「学校教育で地学は生き残れるか？：学会と教育現場との連携について」の内容が「第四紀研究」別冊として出版されることになった（2011年3月出版予定）．執筆中.

(10) ジオパーク支援委員会（高木）

1. 支部選出委員の確認をした．中部支部は検討中.